「もぐもぐチャレンジ！」で地域を元気に！

サンシャイン佐川店では、お客様と協力して、牧野公園の維持費に役立てていただけるようにと、佐川町役場「まちづくり推進課」への寄付（もぐもぐチャレンジ）が始まっています。

写真は、10月11日に、佐川町牧野公園で撮影した「ジョウロウホトトギス（牧野博士が和名を命名）」です。牧野公園はなもりC－LOVEさんより見頃のお知らせをいただき、駆けつけさせていただきました。日頃から皆さんがお世話してくださるお陰で、今年もこのプクプクと可愛らしい花に会えました。

最近は大きな買い物バッグを持って、サンシャイン佐川店で買い物をすることが多くなりました。「もぐにぃシール」が貼ってある商品に出会うとすすんで購入しています。「賞味期限が近づいていますからお早めに食べてくださいね」と、並行して割引シールが貼られていることもありお買い得ですし、無駄な食品廃棄を減らすこともできます。何より「1もぐもぐポイント」＝1円のシールを台紙に貼ることができます。（レジ横に貼ってある「みんなで集めるビッグチャレンジ台紙」に貼って帰るもよし、小さな台紙を持って帰ってゆっくり貼るのもよし※10枚溜まったら、サービスコーナーに設置している投函箱に入れます）

自分1人では小さなチャレンジですが、ふるさと佐川町の方々と一緒に牧野公園の維持に貢献できているようで嬉しくなります。2月にはバイカオウレンの森がたくさんの観光客の方々で賑わうことでしょう。今から楽しみでたまりません。お世話してくださる方々に感謝。

郵船ロジスティクスグループは、持続可能な未来に向けて、地域の皆さまとともに歩みます
https://www.yusen-logistics.com/jp_ja/
Yusen Logistics

vol.9　らんまん稔りの秋特集！
＊2024年10月発行　＊企画・制作・発行・デザイン／ 朝ドラ「らんまん」顕彰会
〒789-1201　高知県高岡郡佐川町奥の土居 市川方　kawazumakeruna@bell.ocn.ne.jp

探訪 牧野博士の歩いた道 田辺市（和歌山県）

南方熊楠ゆかりの神島（かしま）で ハカマカズラを採集

ハカマカズラ
（南方熊楠記念館）

大正13年9月22日、62歳の牧野博士は和歌山県東牟婁郡那智勝浦町から乗船、「午后一時頃田辺に着し、宇井縫蔵氏迎へ呉れ、共に同氏の宅に入り、同氏方に」（『牧野富太郎植物採集行動録』）1週間余り滞在し植物採集を行ないました。博士を案内したのは田辺高等女学校の宇井氏や北島脩一郎氏、同校校長脇村民次郎氏、田辺中学の中島濤氏等この地域の生物研究者達です。同校を採集品整理の拠点とし、神島、畠島（白浜町）、高山寺、稲荷村、蟇岩、闘鶏神社等を巡っています。

闘鶏神社

23日に水産試験場のモーターボートで渡った神島ではハカマカズラ（通称ワンジュ。熱帯系のマメ科のつる性植物。本州では和歌山県海岸部のみに分布）を採集しています。孤高の科学者南方熊楠は「ハカマカズラの存在をもって、強く神島の保全を主張」（南方熊楠記念館パネルより）し、昭和11年神島は国の天然記念物に指定されました。

熊楠ゆかりの地を巡っているわけですが、当時「熊楠は家族の看病のために面会を謝絶」「しかし、弟子達に闘鶏神社、稲荷神社、高山寺、ひき岩など、熊楠が日常的に採集に赴いた地点を（牧野博士が来たら）案内するようアドバイスしていた」そうです。（南方熊楠顕彰館2023年企画展「牧野富太郎と南方熊楠」より）

熊楠は明治33年にロンドンから帰国、明治35年には熊野・那智山を中心に植物採集を行ない、明治37年から田辺に居住。大正5年に田辺市中屋敷36番地にある現南方熊楠邸に終生住んでいます。同企画展資料によると、「この間採集した高等植物を、同郷の宇井縫蔵を介して牧野に送り、同定してもらっている。やはり、当時の日本の高等植物分類の権威は牧野富太郎であった。しかし、熊楠自身が送って同定をお願いせずに、宇井を通して送っていることが興味を引く」とありました。

南方熊楠邸

私が気になったのが、牧野博士が滞在した宇井氏の家と熊楠の家との距離。それを確かめようと今年9月13日、3回目となる南方熊楠邸訪問ですぐにそのことが分かりました。同邸に常駐され、熊楠存命中の邸内復元図を描かれた橋本邦子さんが、「田辺町周辺の図熊楠が歩いた大正・昭和初期の頃」という住宅地図もまとめられていたのです。宇井氏邸は闘鶏神社参道（宮路通）にあり、熊楠邸からは徒歩5分の距離でした。富太郎と熊楠、直接言葉を交わす機会は残念ながらなかった…。

宇井氏はその後大阪に住まいを移し、昭和4年に『紀州植物誌』（淀屋書店出版部）を著しています。その「はしがき」で宇井氏は「多年懇篤なる指導を忝（かたじけの）うした恩師理学博士牧野富太郎先生」に感謝の意を表しています。また、その「紀州植物研究者」の項には「近年紀州植物の研究に先鞭をつけられ、その最も造詣の深きは、余の畏敬せる先輩南方熊楠氏にして紀州産の珍草奇木、氏の努力によりて検出せられたるもの頗る多し。氏の研究は紀州植物全般に亙れるも、特に下等隠花植物に精通せらる」と記されています。

橋本邦子さん（南方熊楠邸母屋）

牧野博士がジョウロウホトトギスを採集した蟇岩にあるふるさと自然公園センター（ひき岩群国民休養地内）は毎年各種の自然観察教室を開催しています。今年7月21日は粘菌の観察会が開催され、私も高知から参加したのですが、いくつかの粘菌を近くの倒木から探し出し、顕微鏡でそれらを覗く親子の姿がありました。

粘菌観察会
（ふるさと自然公園センター）

南方熊楠先生の志が今も活きている田辺、熊野古道の入口田辺、牧野博士も歩いた田辺を皆さんも是非歩いてみてください。

（市川浩司）

粘菌（アメーバ動物）の子実体

田辺市琴ヶ浜から望む神島（かしま）

次号の「探訪 牧野博士の歩いた道」は、牧野博士が昭和2年にスエコザサを発見した仙台市三居沢の探訪記をお届けいたします。このささやかな媒体「牧野人」がスエコザサの研究者と出会える機会を作ってくれました。乞うご期待！

整備の進む「牧野富太郎の聖地を歩く」

（一財）日本森林林業振興会からの助成金も活用

南側山麓コース

柏谷の湿地に整備された木道

２０１２年牧野博士生誕１５０年の年「”植物の精“が息づく町『佐川町』【牧野富太郎の聖地を歩く】コースの開設（案）」が作成されました。

牧野富太郎の聖地を歩くコース開設（案）

制作者は高知県立牧野植物園の稲垣典年先生と共に「牧野博士の歩いた道を歩く」活動を提唱するエンジニアの竹田恒夫氏です。竹田氏は「牧野少年を植物の虜にし、その豊かな感性を育んできた佐川町の草木たち、近代植物学の礎に多大な貢献をした佐川町の野山は、植物学者・牧野富太郎の”聖なる地”である」とし、コース開設の目的を「牧野富太郎が歩いた植物採集の道を地域の特色ある観光資源としてとらえ、「植物愛」を体感できるコースとして開設・整備し、県内外から広く参加者を募る植物観察会を開催して、観光振興策の一助としたい」との熱い思いがあります。

竹田氏はこのコース開設（案）で、牧野青年が多くの植物を採集・観察した場所、牧野青年が命名・植物図等に発表した植物が１３０年以上経った今なお現存する場所、幼年期からの牧野博士の思い出の地等の条件にかなう次の六つの観察コース①南側山麓コース、②虚空蔵山コース、③赤土峠コース、④尾川・古畑コース、⑤奥の土居・目細谷・御土居コース、⑥谷地峠コースを提案しました。

このなかで、牧野博士生家から見た「南側山麓コース」（主要地：金峰神社、西谷の清水、岡崎・室原、鳥の巣集落）は博士にとって最も思い出深い場所であり、また思い出の植物に出会える場所でもあります。具体的にはバイカオウレンと出会った生家裏の金峰神社、清水が湧き出ている西谷には博士命名のタニジャコウソウが今でも咲いています。

タニジャコウソウ
学名：Chelonopsis longipes Makino)

西谷から岡崎へ抜ける峠付近には博士が佐川の珍しい植物の一つにあげているエダウチホングウシダが自生しています。室原から鳥の巣へ抜ける途中の粕谷（カスタニ）地区は湿地の植物が豊富で、博士は１８８７年９月８日に粕谷で採集したサギソウの植物図を描いています。サギソウは現在高知県では絶滅種です。鳥の巣では博士が「少年時代にはじめて故郷佐川で本種を見つけたときの感情は、今日でもなお忘れることができない」と記したヒメノボタンを見ることができます。

この竹田氏のコース提案から10年を経過した２０２２年８月、朝ドラ「らんまん」の放送が同年２月に決定した年、佐川町の有志が結束し「佐川さとやま遊友会」を設立。竹やぶに覆われ、ほとんど誰も歩かなくなっていた「南側山麓コース」にある〈西谷～岡崎ルート〉の５１０ｍ及び〈室原～鳥の巣ルート〉の１１００ｍを再び歩ける道にしよう、牧野博士の歩いた道を復元しよう、サギソウを復活させようと、佐川町の牧野博士顕彰の補助金もいただき、地権者の理解も得ながら道普請を開始。草刈りを繰り返し、木橋を掛け、「牧野富太郎の聖地を歩く」マップを作成し、牧野博士の植物画の看板も立て、「湿地希少植物の守り方、育て方」の勉強会も開催、植物（自然）観察会がなんとかできるまでになりました。

室原・鳥の巣ルートの架橋作業

西谷・岡崎ルートの道普請

うれしいことに、今年２０２４年には一般財団法人日本森林林業振興会高知支部から佐川さとやま遊友会の活動に対して助成金をいただくことができました。それを活用し、佐川町の若手林業グループ・高知地域林業ネットワークが粕谷地区の樹木を伐採、製材し同区の湿地に水生植物観察のための手づくりの木道を敷き、ベンチやテーブルも製作・設置することができました。

高知地域林業ネットワークが粕谷で製作中のベンチ

現在佐川町では、バイカオウレンやジョウロウホトトギスなど四季折々の山野草が楽しめる牧野公園とコース②のフクリンササユリの咲く虚空蔵山コースがさかわ観光協会主催で「聖地を歩く」イベントが毎年開催されています。佐川さとやま遊友会ではこの「南側山麓コース」も魅力ある「聖地を歩く」コースにするために、これからもじっくり楽しく整備をすすめていく方針です。

稲垣先生は、高知県の各市町村はもちろん日本の各都道府県に牧野博士が歩いた道ができるよう尽力されていますが、肝心の地元佐川町が頑張らないといけません。竹田氏は「里地・里山の文化を守る保全活動は、そこで生育・生息する生き物をただ愛でるだけでなく、それを見た人の間で対話が生まれたり、驚きや喜びを提供し、人を豊かにするものだと思う」とも語っています。

全国の植物愛好家の皆様、牧野富太郎ファンの皆様、「牧野博士の歩いた道を歩く」活動、今後とも応援よろしくお願いいたします。

（佐川さとやま遊友会
副会長・市川浩司）

竹田恒夫氏（左）と筆者
（南側山麓コース・西谷上り口）

稲垣典年先生

vol.9 らんまん稔りの秋特集！ 牧野人

今年も恵方巻きの季節に料亭 濱長さんで販売が決定！

ベストセラー『おすしやさんにいらっしゃい！』『すし本』の作者で、海、魚、すし、海藻にまつわる様々な活動を展開中の「すし作家」、酢飯屋 岡田大介さんが感想を送ってくださいました！

２０２２年といえば、ＮＨＫ連続テレビ小説「らんまん」の放送が決定した年。当時、高知市にある学校法人龍馬学園 龍馬情報ビジネス＆フード専門学校の調理経営学科２年生で取り組んでいる「オリジナルメニュー制作」の中にも、おもしろい企画が登場しました。その名も「牧野寿司」！ 牧野富太郎博士が好んだ牛肉、そして博士が信頼できる人物に種を保存しておくよう依頼したことが復活に繋がった牧野野菜の中から、「潮江菜（うしおえな）」・「山内家伝来大根」を使用した太巻きずしです。考案したのは高橋大輝さん。高知の料亭「濱長」さんのご協力により２０２４年２月３日、限定30本販売されたものを、知人が送ってくれました。郷土寿司大国高知県は、このようにして日々新しいすしが生まれて、気がつけば日本一郷土寿司が多い県となったのだなと納得。これからの高知のすしも目が離せません！

牧野富太郎博士が好んだ牛肉の旨みと脂に、牧野野菜「潮江菜（うしおえな）」・「山内家伝来大根」、その他野菜をたっぷり一緒に巻き込んであります。

郷土寿司は、昔から受け継がれたものだけではない。新しく作り出してもよいもの。断面の色バランスだけでなく、味もしっかり整っていてとても美味しいすしです。高知の定番のすしとして根付いていきますこと願っております！

郷土寿司プロジェクト「牧野寿司」より
https://www.sumeshiya.com/project/

濱長さんのセンスが光るパッケージ

牧野寿司登場！

限定30本！

今年も素晴らしい作家さん方が勢揃い！

第17回 さかわ・酒蔵ロード劇場２０２４ 今年は11月30日（土）に開催決定！

酒蔵ロード劇場は、歴史的風致維持地区である佐川町上町の白壁の建物や古民家等に様々な作品を投影・展示し、幻想的な光と音楽の劇場として大人から子供までが楽しめるイベントです。昨年は「司牡丹平成蔵にも作品が投影され話題を呼びました。今年は朝ドラ「らんまん」の主題曲「愛の花」のＹｏｕＴｕｂｅ動画であいみょんさんとコラボされたり、待望の第6段『パンどろぼうとりんごかめん』を出版された柴田ケイコさんの作品もお目見えするそうです。

＊写真は昨年のスペシャルゲスト酒井敦美さんの作品です。今や世界中でご活躍中の酒井さんは、２００８年の酒蔵ロード劇場発足から10年に渡ってご参加。昨年、郷土作家との夢の競演が実現しました！

「IWSC（インターナショナル・ワイン・アンド・スピリッツ・コンペティション）」（英国）の2024年のコンペにて、「マキノジン」が「Silver（銀賞）」を受賞されました！

「IWSC」と言えば、1969年に創設された歴史ある酒類コンテストで、世界のワイン、スピリッツ、ウイスキーなどを対象に審査され、（会長はロバート・モンダヴィをはじめとした著名人達が務める）世界中で最も有名な酒類コンペです。しかも、世界的なクラフトジンブームの昨今、「ジン部門」は 800点を超える今年最大のエントリー数だったらしく、「Gold」はわずか66点。「SIlver」は359点だったそうです。そんな中で、新発売してわずか３年目の「マキノジン」が、世界で最も権威と歴史を誇る「IWSC」で「SIlver」を受賞できたのは快挙と言えるでしょう。さらに８月12日には「IWSC」と共に世界三大酒類コンテストと言われる「ISC（インターナショナル・スピリッツ・チャレンジ）2024」（英国）にて、「マキノジン」は「Bronze」、つまり銅賞を受賞！「マキノジン」の開発者兼プロデューサーの塩田貴志さん（高知市のBAR「Craps」オーナーバーテンダー）、誠におめでとうございます。司牡丹の蔵（元牧野富太郎博士の酒蔵）にある「マキノ蒸溜所」の看板（塩田さん寄贈）には「ヨウコソマキノジョウリュウジョヘ サカワチョウカラセカイヘイクヨ」と書かれていますが、この度の２つの受賞は、早くも世界に向けた一歩を踏み出すことができたという証し。今後の展開がますます楽しみです！